

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名** 笠岡市炉端の家

日付 平成 20年 3月 31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

## 1. 評価結果の概要

### 講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成8年、笠岡市ときのエスポアール病院が共同して認知症ケアの先駆的实践をしていく場として、全国でも初めての試みのホームを5月に開設した。当時の言葉で言えば、痴呆という障害について、特別な専門家によって分かり始め、認知症の人に対して、どのようにケアしていけば良いのか考慮が始まった時だったと思う。統計によれば、平成10年3月末、全国で41事業所が設置されていた。私事であるが、平成8年と言えば、アルツハイマー病の妻の症状は第2期から第3期に移っていった大変な時だった事を思い出す。このような時に、グループホームが岡山でも発足した時に従事した職員と利用者の状況はどのようなものだったのか。それから12年間の経緯は我が国の認知症ケアの歴史を物語っていると言える。

当初から、笠岡市が事業主体となり、管理者や職員は市の職員として利用者のケアに当たってきた。きのこエスポアール病院、老人保健施設、グループホームも協力体制にあり、両者が共同して認知症ケアの有るべき姿を探求してきた事業所と言って良い。そして平成14年から、日常の運営をきのこ新生寿会に全面委託している。当時から一貫している事は「利用者の気持ちを知って、その思いを実現していこう」とする職員が、自分達のすべき仕事をきちんとする。そしてお互いに目標から脱線しないよう常に評価し、共有していこうとする管理体制がある。利用者が「ホームで安心してその人の思う生活を続けていける環境作り」をする為には、職員が報告、連絡、相談等の仕事がきちんとする業務があつてこそ実現する事を実証している。最近の4年間外部評価制度の中で、このホームとお付き合いさせて貰っている中で、ホームの活動ぶりを見せて貰う色々の面でこの事を知る事が出来た。「利用者の精神面や身体的機能が衰退していく事に対し、人間としての価値をどのように維持していけるか、職員間で高い気持ちを持ち続ける事を共有している。医療的に胃ろう措置や薬で安定させる治療に対し、介護する人間としての気持ちによって心の通いから症状を軽減していこうとする職員によって、利用者人間として回復させる努力をしている」「来年の事は分からない寝たきりの人が、大阪八尾市のお墓参りに行きたいという希望を実現する為に、吸引器や万一の時の処置の用具等、用意周到で職員3人が同行して(費用は自己負担)実現した。希望を叶えて、一緒に楽しめたかった。どのような表情をされるか見たかった、という一念で」「ターミナルケアも家族の希望と条件が整えば、いつでも行う」等、事例は限りなくあるが、ケアの記録も何回でも読み直してみたいという生きたものとなっている。家族との電話連絡も、その会話がドラマのシナリオの如く書き留められている。外国に居住している家族や国内でも遠い家族とは、メールで訪問して話をするように情報交換している。このホームの様子は書き足りない程あるが、この状態を維持して、外部に発表する機会があれば、多くの人に聞いて貰いたいなあの思いを提案しておきたい。

特に改善の余地があると思われる点

特になし

## 2. 評価結果(詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：地域との関係を現在よりもっと密にして、ホームを知ってもらいたいと啓発や広報に努力していきたいとしている。理念は設立当初より、職員全員で考えており、毎年度その実現に目標を定めて実行しているので問題は無い。</p> <p>2、全体的に見て…：このホームの特長は、利用者にはゆったりした広いスペースと完備された居室で生活して貰っているが、職員の居場所のスペースはない。職員は小さな荷物置き場のような所で更衣したり、自分の持ち物を置いているので、そこにホームの理念や目標を掲げている。必ず出勤の時には目に付く所で、毎日退所する時にはそれを見て、今日自分のした事を反省したり、明日への道を探る事だろう。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：リビングルームを一昨年改装して、広々とした空間を作ったので、利用者の日常の居場所がそれぞれの人にに応じて陣取れるようになった。外も広い空間があるので、一寸した散歩も出来るので改善するところはない。</p> <p>2、全体的にみて…：笠岡市の認知症介護研修センターが隣にあり、小高い山合いに立地しているので、環境としては申し分ない。その中を散策も出来、四季折々の風情を楽しむ事も出来る。</p> <p>ホーム内では、リビングルームで自分の好きな場所と友達で楽しく過ごせるし、自分の部屋で好きな時間を過ごしている。空間全体を利用者は有効に使いこなしている。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：日常の職員の業務一つひとつを確実にやりこなしているように見受けられるが、少しの間違いや反省すべき事を見逃さず、諸業務について職員一人ひとりの質の向上と仕事の進め方を改良し続けて行きたいとする前向きな姿勢を感じる。昨年ノロウイルスの感染があったのを反省して、感染症対策について相談したり、マニュアルの完備に努めて行きたいとしている。対策の万全を期待する。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者を認知症である前に人間として大切に付き合っていく姿勢が、当初より貫かれている。利用者本人と家族の気持ちや思いを大切に、細かい所まで行き届いたケアとサービスをしている実態が、色々な場面で見受けられることが素晴らしいし、ホーム全体の対応に安心感がある。利用者や家族にとって思い出が残り、本人が亡くなった後でも、家族が何時までも付き合っているホームである。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：昨年11月ホームの主催で「炉端まつり」をホームをもっと知って貰おうと地域の人々を招いて開催した。パザーや屋台を作って楽しい一時を過ごす事が出来たし、佐々木院長のミニ講演もして、認知症の理解をして貰った。この機会が大変盛況に終わったので、今後も地域の方々との交流を尚一層深めて行きたいと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者がこのホームに来てから表情が豊かになったり、食事をしっかり食べて歩けるようになって、家族も本人の見違える姿に接し、大変喜んでおり、何時までもこのホームで過ごさせて貰いたいという思いが、どの家族にもある。職員も利用者や家族に対し「あれしてあげたい。これしてあげたい」という思いを募らせている。笠岡市が母体である通念からすると、「お役所が…」と思う人が多いが、笠岡市は全国的に見ても人に優しい役所だと嬉しい思いをしている。</p>		